

地域福祉のために ～ふれあいのバトンタッチ～

問合先 福祉総務課 (☎ 76 - 1196)

令和4年12月1日付けで、これまで長く小牧市地区民生・児童委員連絡協議会の会長を務められた吉田 友仁さんが、小牧市社会福祉協議会（社協）の会長に就任しました。前会長の稲垣 喜久治さんが平成22年に5代目の会長として就任以来、実に12年ぶりになります。稲垣さんと吉田さんは、ともに平成22年からそれぞれ社協の会長、民生・児童委員連絡協議会の会長として、連携して地域福祉の推進に努められてきました。

お二人の今までの活動を振り返りながら、これからの地域福祉について、お話を伺いました。



稲垣 喜久治さん

12年間という長期間にわたり、社会福祉協議会の会長を務められました。

①社協会長をやってきて、印象に残っていること

平成13年から地元区長を務め、平成19年からの3年間は、区長会の連合会長という大役も仰せつかって、地域のためにという想いでやってきました。

社協会長の就任当時は、“10年は頑張ろう”と目標をたてていましたが、気付けば12年も経っていました。その中で、とても多くの皆さんにお世話になり、吉田新会長にもこの12年間社協の副会長として助けていただきました。

社協としても、民生・児童委員の方々や福祉関係者、ボランティアの方々など、地域の多くの方々を支えられ、成り立っているということに常に実感していました。

そして、やはり新型コロナウイルス感染症の影響が一番心配しました。社協は、高齢者の方や障がいのある方、生活にお困りの方などをお支える業務が中心になるため、業務が停滞しないように先頭にあたって予防対策に力を注ぎました。皆さんにもご不便をおかけしたと思いますが、ご理解とご協力もあり、なんとか社協としての役割を果たせたのではないかと感じています。

り、なんとか社協としての役割を果たせたのではないかと感じています。

②吉田新会長に託したい想い

超少子高齢化・人口減少、そして人生100歳時代を迎え、大変な時代になってきますが、人と人とのつながりを結び、誰も孤立させることのない助け合いのまちづくりをより一層進めていてもらいたいと思います。

③退任するときの心境について

社協のボランティア組織も中高生をはじめ、一般ボランティアも多く、近隣の市町村ではNo.1と言っても過言ではないと思います。また、サロン活動も80力所を超えるようになり、地域に定着し、理想の活動に近づいていることが肌で感じられるようになるなど、今がバトンタッチするベストタイミングだと思いました。

12年ぶりの会長交代 想いを託し、バトンタッチ



吉田 友仁さん

令和4年12月から新たに社会福祉協議会の会長を務められています。

①民生・児童委員をやってきて、印象に残っていること

これまで30年以上にわたり、地域の多くの方に寄り添い、耳を傾けて必死で駆け抜けてきました。

いろいろなことがありましたが、2018年に自主事業としてフードドライブの取組を始めました。フードドライブでは、困窮者へ食を通して支援するのみならず、食品ロスの軽減に協力し、SDGsの推進にもつながり、少しでもお役に立てたのではないかと考えています。

また、北里地区の取組としては、要援護者台帳とマップを作成し、自ら地元区長の会合に出向き、協力をお願いするとともに、各委員がそれぞれの担当地区をまわり、一地区も欠けることなく作成することができました。この台帳とマップは、区長とも共有し、地域で支え合う福祉の実現を後押ししてきたと思います。

②社協会長を「引き受ける」と決意したときの心境

これまで長く民生・児童委員として働き、多くの方に支えられてここまでやってこられたという感謝の気持ちがあり、自分が必要とされる限りは、これまでいただいてきたご縁や経験といった財産が地域のお役に立てるのであればということで、謹んでお

受けすることにしました。また、自分が会長になることによって、今まで以上に社協と民生・児童委員との連携も進むのではないかとこの想いもありました。

③これからの抱負や地域福祉への想い

今後ますます高齢化が進んでいくことが予想されています。ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、介護を必要としている方など、見守りや支援を必要とする方が増えていく一方で、介護や福祉における専門職が慢性的に不足しており、さらには地域での“担い手不足”も大きな課題となっています。

こうした中、地域における見守りや支え合いの体制を今よりもさらに充実させていく必要がありますが、これは行政だけではなく、社協や民生・児童委員など、いろいろな立場の人が、知恵や力を出し合って、一致団結してやっていかなければなりません。

自分もこれまで民生・児童委員という立場で市や社協と協力する中で、地域におけるさまざまな課題に取り組んできました。立場が変わっても、お互い協力、連携していくという気持ちに変わりはなく、社協としても「来てよかった」、「相談してよかった」と言っていたような姿を目指していきたいです。

地域福祉の推進を図ることを目的に、住民や地域の関係機関によって組織化された民間の福祉団体で、すべての市町村に設置されています。

その区域内における社会福祉を目的とする事業を経営する者または社会福祉に関する活動を行う者が参加し、かつ、その区域内における社会福祉事業または更生保護事業を経営する者の過半数が参加する必要があります。



▲窓口相談の様子

社会福祉協議会が実施する事業の一例

社会福祉を目的とする事業の企画および実施

社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助

社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整および助成



▲高齢者サロンの様子



▲移動販売の様子

小牧市社会福祉協議会は、昭和30年に任意団体として発足し、昭和46年には社会福祉法人となりました。

「市民みんなが参加し、みんなで支える福祉」のスローガンのもと、市の地域福祉における中核機関として、高齢者などへの在宅福祉事業や市からの委託による地域包括支援センター、障害相談支援事業所の運営、善意銀行やボランティアセンターの運営など広範囲に福祉活動を行っています。

社会福祉協議会の活動は年4回発行している「社協だより」に掲載しています。



安心して暮らせる地域づくりのために

助け合いの輪でつながるまち

人口減少と少子高齢化が同時進行する中で、行政も社会の変化に先んじた大きな改革の必要性に迫られています。

とりわけ、福祉の分野では、日々新たなニーズが生まれ、複雑・多様化しています。

昨今の新型コロナウイルス感染症の影響で、人とのふれあいの機会が制約されることとなり、関係性の希薄化がより一層進行した印象を受けます。

このような背景もあり、地域福祉の重要性は今後ますます高まっています。地域福祉活動を通じて「気づき」と「学び」を経て、「支援する人」「支援される人」のように分けるのではなく、それぞれに役割を持つてつながり合うことで、お互いに支え合い、行政や関係機関と協働して「元氣」と「支え合い」が好循環する「支え合いの地域づくり」が重要になっていきます。

こうした地域づくりのためには、129の行政区はもとより、小学校区単位を基本としたコミュニティ組織である「地域協議会」、地域福祉の中核的な役割を担う社会福祉協議会や住民と行政・関係機関とのパイプ役で

ある民生・児童委員、主任児童委員に対する期待はとも大きくありません。

今回、長年小牧市地区民生・児童委員連絡協議会の会長を務められた吉田さんが社会福祉協議会の会長に就任されたことで、これらの連携がこれまで以上に深くなり、より一層、地域福祉の充実が進むことを期待しています。

市も含めて一致団結して、「あなたが主役 助け合いの輪でつながるまち『こまき』」の基本理念のもと、子どもから高齢者まで誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていける地域づくりを推進していきたいと思えます。



▲社協会長の交代について、市長へ報告する吉田会長(写真左)と稲垣前会長(写真中央)

